

令和4年度 「小中学校のつながりのある教育」
育成を目指す資質・能力の重点

吉田町教育委員会
吉田町校長会

1 「小中学校のつながりのある教育」の経緯

【平成29年度・平成30年度】小中学校のつながりのある教育検討委員会

◆「吉田町が育成を目指す子供像」の決定

吉田の精神を受け継ぎ、未来を切り拓いていくことのできる子供

◆「吉田町の教育を通して育成したい資質・能力」の決定

「内省する力」「行動力」「郷土愛」・・・学びに向かう力、人間性等

「探究課題に応じた知識・技能」・・・知識及び技能

「問題発見力」「コミュニケーション力」・・・思考力、判断力、表現力等

◆「小中学校のつながりのある教育を推進する軸」の設定

吉田町として目指す子供像や、それに伴う資質・能力の育成は、授業を核とした全ての教育活動を通して行われるものであるが、とりわけ小学校と中学校で探究的な学びとして一貫して取り組む、「総合的な学習の時間」の学びの質を系統的に高めていくことで達成されたいと考え、小中学校のつながりある教育の軸を「総合的な学習の時間」（吉田探究）とする。

【令和元年度・令和2年度】

◆吉田探究の研究的実践

中央小学校をモデル校に指定し、吉田探究の授業公開やモデルカリキュラムの作成を行う。また、吉田探究を支える思考スキル向上のため、全小中学校において、モジュールを活用した「探究基礎」を行う。

【令和3年度】

◆吉田探究の研究的実践

吉田中学校をモデル校に指定し、吉田探究の授業公開を行う。

◆「吉田町の教育を通して育成したい資質・能力」の重点化に向けた検討

次年度、吉田町が児童生徒に育成したい6つの資質・能力の内、小中学校が吉田探究を軸に、その他の授業や全ての教育活動を通し、重点を置いて育成に取り組むものを検討する。



コミュニケーション力

〔設定の理由〕

- ・コミュニケーション力は学びや生活の基盤となる資質・能力であること。
- ・異なる価値観や多様性を受容するとともに、他者との共存の中で、自分らしさを発揮しながら生きる力が、ますます求められる社会となっていること。

2 令和4年度の取組

本年度は、町内4小中学校が吉田探究を軸としつつ、授業を核とした全ての教育活動を通して、「コミュニケーション力」の育成に重点を置いて取り組みます。

コミュニケーション力を発揮している姿とは、単に「しっかり聞く」、「はっきり話す」という、形として見ることができる態度だけではなく、例えば次のような内面性も含めた姿が考えられます。

- ① 自分とは異なる他者を認識し、理解しようとしている。
- ② 他者認識を通して自己の存在を見つめ、深く思考している。
- ③ 他者と協調、協働しながら、正解のない課題に果敢に挑戦している。

子供はもともと有能な学び手です。知りたいと思えば調べるし、分かりたいと思えば考えます。聴きたいと思えば静かに耳を傾け、伝えたいと思えば表現し始めます。まさに、主体的に自他へのコミュニケーション力を発揮している姿がそこにあります。

私たちは、こうした子供たちの本来の姿を引き出すための学びの伴走者です。知的好奇心を喚起する意図的な仕掛けや、学習環境づくりを行いながら、そこから見えてくる子供たちの具体的な姿の価値に気づき、認めていくことで、子供たちの「コミュニケーション力」をより高めていきましょう。

気づきがあるから考えたくなくて、
友達の考えを聴いていたら自分も話したくなくて、
分かろうと聴いてくれるからもっと話したくなくて、
話してみたら集団に参加できたうれしさがあって、
でも、話したら友達と違う考えだから再び考えてみて、
また伝え合っていたら、
みんなで新しい考えをつくることができた。
できるってうれしい。分かるって楽しい。
みんなのおかげ！みんなみんなありがとう！

